



TITLE:

現代社會問題より見たる琉球 - 現代社會問題研究の基礎としての國民性研究の一考察 -

AUTHOR(S):

石川, 興二

CITATION:

石川, 興二. 現代社會問題より見たる琉球 - 現代社會問題研究の基礎としての國民性研究の一考察 -. 經濟論叢 1932, 35(6): 825-846

ISSUE DATE:

1932-12-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130256>

RIGHT:

京都市大學經濟學會 經濟論叢

第三十五卷 第六號

昭和七年十二月一日發行

論叢

制欲説の吟味・・・・・・・・・・文學博士 高田 保馬
爲替心理説の主張・・・・・・・・・・經濟學博士 谷口 吉彦
政治算術附地方算法に就きて・・・・・法學博士 財部 靜治

時論

米專賣制の弱點・・・・・・・・・・法學博士 神戸 正雄
現代社會問題より見たる琉球・・・・經濟學博士 石川 興二

研究

オーヴァーストンの金融統制理論・・・・經濟學士 一谷 藤一郎
我國の市町村義務費に就いて・・・・經濟學士 小山田 小七

說苑

再び貨幣の主觀價值に就て・・・・經濟學士 柴田 敬
人口動態並行法則を論ず・・・・經濟學士 三谷 道麿

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題
本誌第三十五卷總目錄

(禁轉載)

現代社會問題より見たる琉球

——現代社會問題研究の基礎としての國民性研究の一考察——

石 川 興 二

一、社會問題研究と國民性研究の關係——琉球研究の意義

社會問題なるものゝ意味は社會の安定期に於けると社會の變革期に於けると其の意味を異にする。社會の安定期に於ては既存の制度の下に於て如何にして社會の人々の生命の發展を計るかゝ問題であり、社會の變革期に於ては社會の人々の生命の發展の爲に既存の制度を如何に變革するかが問題である。我國史上に於ては三つの大きな社會變革期があつた。大化の改新・鎌倉開幕・明治維新が即ちこれである。明治維新は、鎌倉開幕以來數百年の歴史を有する封建制度を打破すると共に、資本主義制度へ進む轉向點となつた。即ち西歐諸國に於て十分なる發達を果げた資本主義、即ち個人主義と唯物主義とを其根本原理とする資本主義制度は、非常なる勢を以て取入れられたのである。歐洲大戰と共に此資本主義制度は異常な發展を果げたと共に今やこの資本主義制度は日本の國民的生命の發展に對する一大障礙となつたのである。即ち資本主義制度に於ける經

濟的無政府狀態は我國をも世界的經濟恐慌の中に投ずると共に、またその個人主義的唯物主義的原理は今や政治、教育、宗教、社會生活、思想生活等一切の文化域を冒し、それら總ての文化域に於ける正しき價值の創造を阻害しつつある。即ちそれら文化域に於ては今や多くの人々は各文化域の本來的なる價值自體を創造することよりも、むしろそれを經濟的交換價值即ち金錢價値の創造のための手段として居るのである。ここに多くの社會的罪惡が行はれ、また文化の墮落が發しつつあるのである。かくて我々は今やこの資本主義的制度を變革することによつて日本の國民的生命の新なる發展を計らなければならぬ。これ即ち現代の社會問題である¹⁾。

かくして社會變革期に於ける社會問題なるものは其社會の人々の生命の發展のために既存の制度を變革する問題である。故に既存の制度を如何に變革すべきかは、其社會の人々の生命の性質に相應して決せられねばならぬ。即ち現代我國の社會問題について云へば、現代日本の資本主義制度が我國國民の性格に相應して變革されねばならぬ。それは恰も各人の生命の發展を計るべき眞の教育なるものが、各人の個性に即してなされねばならぬと同様である。かくて眞に我國の社會問題を解決せんが爲めには、先ず其根本に於て我國國民性を明かにしなければならぬのである。

扱て自國の國民性を知るといふことは、他の國民性を知ることと相俟つて十分なるを得る。これ各人が自己の性格を明に知るが爲めには、他の性格を知ることが必要であると同様である。即ち他の性格を知りこれを自己の性格と比較する時、自己の性格は初めて十分に明かとなるので

1) 拙稿本誌八月號「變革期の社會政策」及十一月號「安定期經濟學と變革期經濟學」参照。

ある。

然るにここに自國の國民性を知るための更に一つの有益なる場合がある。それは自國民と同じ民族が自國とは別に獨立な歴史を展開せしめて居る場合である。若し日本人にとつてかかる事實があるならば、我々は日本の國民性の研究を十分になしとげんがために、かゝる歴史を研究することは非常に有益である。而して我々日本人はかかる事實を正に琉球の歴史に於て有して居るのである。

即ち琉球人は日本人と全く同じ人種でありながら、獨立の王國をなし日本と地つづきの琉球列島に於て獨立の國民文化を發展せしめたのである。故に琉球國を知ることによつて我々日本人は自己を他なる鏡に寫して見ることとなるのである。而も琉球は、アリストテレスが其「政治學」politicsの基礎として觀察せしギリシャの都市國家の如く小さくまとまれるミクロコスモスを成せるが故に、そこには文化の諸現象を時間的並に空間的に一括して考察し得る便宜がある。

加之、資本主義的個人主義經濟に行き詰まれる現代社會が、共同主義經濟への轉向を考へねばならぬ今日に於ては琉球は更に我々に教へるところがあるのである。即ち琉球に於ては、明治三十六年まで共同主義經濟が全體に行はれてゐたのであつて、而も資本主義經濟は未だ浸透してゐない。従つて今日尙ほ共同主義經濟の氣持が濃厚であつて、其一部に於ては尙ほ班田收授の法其他の共同主義經濟が行はれてゐるのである。これ等共同主義經濟を明にし、それが其國民性と如

何なる關係にあるかを明かにすることは、我國民性に即して個人主義經濟より共同主義經濟への轉向を考察しなければならぬ我國の現代の社會問題にとつて教へるところが多いのである。

またかく共同主義經濟が支配的である琉球に於て、或一部に於ては、古來徹底的なる個人主義經濟が行はれ來つたのであるが、この原因を明かにすることは、同じく現代社會問題に對し教へること少くない。

かくて私は先づここに琉球の國民性を考察することにより我國民性の闡明に資せんとするのである。

然らば國民性なるものは如何にして明かにし得るであらうか、このことは個人の生命の發展を計るための教育についても同様に起る問題である。例へば親が我子を眞に教育しようと考ふるならば、その子の個性に即して教育しなければならない。然らばその子の個性は如何にして、これを本當に知り得るであらうか。それは親の主觀的な感情によつて決せられるものであつてはならない。「親馬鹿」なる語はこのことを意味する。子の個性を眞に知らんとすれば、彼は其子の生れし以來の云爲言行を確め、これを通じて、その子の生命を客觀的に理解しなければならない。即ちその子の生命の諸の表現を通じてその子の生命の本質を客觀的に把握するのである。子の生命の本質を把握するにこれ以外の客觀的な方法はない。かくて過去に顧ることによつて、その子の生命の本質を客觀的に把握するならば、次にこの性格に即して將來に向つてその子の生命の發

展を計り得るのである。これ即ち眞の教育である。國民の生命の發展もまた同様にして計り得る。即ち我々は先ず其國民の過去を歴史的に顧みて其國民生命の諸の表現 Ausdruck を明にし、而してこの諸の表現を通じて國民の生命 Leben の本質を理解 Verstehen しなければならない。かくて國民の生命の本質即ち國民性を客觀的に把握したならば、次にこの國民性に即してこの生命の發展を將來に向つて計らなければならない。これ即ち國民性の研究に基く社會問題の考察である。かくる考察によつて初めて社會問題なるものは眞の解決に到達し得るのである。

即ち眞の社會問題の解決は國民性研究に基礎づけられたものでなくてはならぬ。即ち生命の發展と其本質を過去に顧みて明かにすることが國民性研究であるならば、かくて明にされし生命の發展を將來に向つて計る爲めの考察が社會問題の研究である。そこには一連の生命の發展があるのであつて、其過去よりの發展を將來の發展へ媒介するものが、現在の歴史研究及び社會問題の考察である。

扨て、一つの獨立の國民的生命を知らんとすれば、その自然の中に於て其歴史的表現に觸れ、其人々に接することが第一である。例へば外國の博物館に於て日本の藝術品を見るものは未だこれを十分に理解し得ない。また外國の地に於て日本人を見る者は未だ日本人を理解し得ない。日本の地に來り日本の自然の中に於てこれ等のものに接し初めてこれを十分に理解し得るのである。かくて一度其國土に觸れ、其生命に具體的に觸れたるものは、其生命を愛し、其生命を更に

深く知らんとするのである。かゝる具體的な體驗と、内面的なる要求とを以て、其國に關する文獻に接する時、今や我々はかかる文獻を單なる概念としてではなく、具體的に體驗せる生命の表現として、内面的に理解することが出来るのである。ここに其地を踏んで見るといふ旅なるもの、歴史研究ことに國民性研究及び國民性研究に基く社會問題の考察に對する重要な意義がある。同様に日本の國民的生命の眞の發展に資すべき日本經濟學體系を打立てんとするものにとつては、廣く日本の自然を知り、また日本の生命の表現せしところの文物に具體的に接することにより、先づ日本の生命を具體的に知るといふ事が大切である。今日の日本の知識階級の多くの者は西洋よりも自國を知らないのであるが、我國の經濟學界が今日の西洋經濟學翻譯時代より日本經濟學の創造に向ふ爲めにはこのことが極めて重要である。

以下述べんとする所は、自分の琉球に於ける見聞と讀書とによつて知り得し所にして、特に我國現代社會問題にとつて意義ありと考へられたところのものである。勿論生に對する理解は自己の生の深さに相應するものなるが故に、生の更に深き人々は更に深く琉球より學び得るであらう。

二、琉球文化に現はれたる國民性

(一) 琉球文化の自然的條件

一國民の個性を決定すべき三條件は、其國の風土と、其民族の血と、而してその國民の展開せ

し歴史的出來事とである。この三者は、生産の三要素即ち土地、労働、資本の三者に譬へることが出来るであらう。而して資本は土地と労働との成果である如く、國民性を最も基礎的且恒久的に決定するものは其國の風土と民族の血とである。かくて琉球の國民性を明かにせんとせば先ず其國民の血と其國の風土とを一應考察して置くことを要する。先ず民族より見よう。

今日、日本の知識階級の人々ですらも琉球人を支那人と考へてゐる人が少くない。然るに琉球人は我々と同じ大和民族である。このことは今日考古學上よりも人類學上よりも確められてゐる。即ち我國土に全般的に住んでゐたアイヌ人種の上へ入り來れるツングース人種と南洋人種との混血により有史遙か以前に大和民族は成立つたと考へられるのであるが、琉球人を成すところのももこれら三種の血である。但しこの混血の過程については種々考へられるであらう。而して一度日本内地に於て成立せる大和民族の一部が、日本より、アイヌ人種の住んでゐた琉球へ移動し、かくして今日の琉球人を成したと考へる方が、日本内地人よりも一層アイヌ的要素の勝つてゐる今日の琉球人を適切に説明するものであらう。またこの日本よりの南進説が、琉球の神話の日本のそれと酷似せること、また彼等が北をもつて「上」とし南を以て「下」とせること、日本を「大和」と呼べること等を一層よく説明するであらう。

次に其自然について考へる。琉球の地形は丁度日本を小さくしたかの如く、西南より東北に點在してゐる嶼島である。其中の最大なる島である沖縄本島は、丁度日本の本州を小さくした様な

形をして居る。那覇より上陸して、眞紅のアカバナ、美しい斑入りのクロドンの葉、美事に繁れる檳榔樹、榕樹等の南洋的な植物を見る時、我々は一寸異國的情緒にうたれるのであるが、然しよく見れば、地勢は小山が起伏して松の林がこれを蓋ひ到る所芝生が生へ、全體として和やかな美しい日本の自然と異ならない感を與へる。唯其規模は一樣に小さい。かく自然が日本と趣を同じくし而も一層小さいといふことは、この自然の下に立つ文化一切の性格を規定するところのものである。那覇首里附近の氣候は嚴寒の頃が内地の十月から十一月位であり、而も夏は京都・東京等よりも涼しいと云はれて居る。故にそれは丁度日本内地の氣候より冬をぬいたものである。かくの如く琉球の自然的基礎が日本と等しいといふ事は、この自然的條件の上に展開せる歴史的表现を通じて把握せらるべき國民性により日本國民性を明にすることを一層容易ならしめる。

(二) 琉球文化の文化的要素

かくの如き自然的條件の上に他の文化的要素が加はつて、琉球特有の文化が醸成されたのであるが故に、これら文化的要素を一應考へて置く必要がある。

即ち琉球人は本來大和民族であるが故に、日本人と共同なる先天的才能、趣味等を有してゐたと考へられるが、これが琉球文化の基礎をなし、琉球の自然の特有の影響の下に於て、諸外國の影響を受けながら、一種特有の文化を醸成したのである。

先ず日本との交渉は古くより可成り密接であつたと考へられるのであつて、従つて日本文化も

漸次琉球に入れられた。琉球の國字となれる「いろは」文字は舜天王の頃に傳へられたと云はれて居る。言語も我々と同じであるが、發音の異なると、古語の残つてゐると、訛の甚しいこと等のために一寸解り難い。古語は足利、鎌倉、藤原更にそれ以前のものも残つてゐると考へられる。これと共に日本の古き風俗習慣もこゝに保たれて居る。而して沖宮の建築様式は奈良朝から平安朝の初期までに限つて用ひられた建築上の形式を保持してゐる。¹⁾かくて琉球は日本の徴古館であると云はれる。この點に於ても琉球は日本國民性の研究にとつて重要な意義を有する。

支那に對する關係に於ては察度王の時明に入貢し、次て明より冊封使が送られる様になりし以來、支那の文物は大いに輸入せられるに至つた。其他朝鮮、南洋、印度支那との交渉も顯著であつた。要するに琉球文化は日本が基礎をなし、これに支那が大なる影響を與へ、朝鮮、南洋、印度が幾分の影響を與へた而して歐米の影響は殆んどないのである。

(三) 琉球政治に現はれたる國民性

上述せし如き自然的要素と文化的要素により展開されたる琉球文化を見、而してこれを通じて其國民性を考察しよう。

それを通じて國民性を見るべき文化的表現は、三種に分つことが出来るであらう。ヘーゲルの言葉を用ひて云ひ表せば、主觀的精神 Der Subjektive Geist と客觀的精神 Der objektive Geist と絶對的精神 Der Absolute Geist とがこれである。²⁾即ち琉球國民精を明にする爲めには琉球を代表す

1) 伊東忠太著、木片集。第四九四頁。
2) Hegel, Encyclopädie, Dritter Teil.

るが如き偉人¹⁾を考察することを要するのであつてこれは主觀的精神に屬する。次に法律、政治、經濟等は客觀的精神に屬し、藝術、宗教、道德等は絶對的精神に屬する。一國の國民性はこれ等總ての文化域を忠實に研究することによりて初めて具體的客觀的に把握され得るところのものである。然しかくの如き一論文に於てはかくの如き取扱は許されない。故にここには主觀的精神については考察を略し、而して客觀的精神に於いては政治について、而して絶對的精神に於ては藝術について、琉球國民性を理解することにとめよう。かくて國民性が明にされたる後この國民性より琉球の經濟的制度を根本的に理解することに努めたいと思ふ。而してまた私にとつてはこの政治、藝術、經濟の三文化域が琉球に於ける最も重要な文化域と考へられたのである。

かくて先づ政治に現らはれたる國民性を考察しなければならぬのであるが、この政治についてもその全體についてこれを考察することはこゝに許されないが故にその中特に王朝の變遷に現らはれたる國民性を中心として見たいと思ふ。これ一國の國民性なるものは、其社會の安定期に於ては絶對的精神の域に最もよく現らはれるのであるが、社會の變革期に於ては客觀的精神の域に最もよく現らはれると考へられるが故である。即ち「歳寒して松柏の凋むに後るゝを知る」と云はるるが、かくの如き社會の大變遷には其國民性がよく現らはれるのである。例へば英、獨、佛の王朝の變遷の様態を見る時我々は其國民性の相違を明にし得るのである。

扱て琉球に於ては六つの王朝が變遷して居る。其第一は天孫氏王統であるが、この時代は神話

1) 名君尙眞王、忠臣護佐丸、學者にして名政治家蔡溫等はこれである。

の時代である。而して琉球の天地開闢の神はアマミキヨ及びミネリキヨ二柱であつて、これ日本の伊冊諾、伊冊冉二神に相當するものであり、既に述べし如く其神話の全體の趣が我神話と酷似して居る。其子孫が琉球に君臨して天孫氏と稱し、首里を國城として相傳ふること二十五世にして、逆臣利勇の爲めに亡されたと云ふことになつて居るが、この時代については記録もなく國王の名さえ傳はつてゐない。

琉球史に於ける王統の確實な記録は、舜天王から始まる。即ち浦添の按司尊敦義兵を起して利勇を誅し、衆望を負ふて王位に即いたのが即ち舜天王である。この舜天王は古來爲朝の子であると云はれて居る。而してこのことの無下に否定し難きことが次第に明にされんとして居る。琉球の文字として用ゐられて居るところのものは「いろは」であるがこれはこの爲朝により傳へられたと云はれて居る。この王統の第二代義本¹⁾王が位についてから飢饉や疫病が頻りに起り、國民の苦が續いたので王は自ら其德の薄きを責め、位を伊祖の按司に譲つて隱遁した。これ英祖王である。

英祖王は國內を巡視して大いに治蹟を舉げ、就中井田の法を設けて始めて税制を定めた。このことは後に經濟的制度を考へるに當つて特に注意すべきことである。英祖王統の末期に至つて、國內大いに亂れ、沖繩本島の北部國頭、南部島尻は獨立し王は僅に中部を保つて中山王といはれるに至つた。三山中でも各間切の諸按司が割據し、戰國時代を出現した。察度はこの中に立つて中山王の位に即いた。即ち察度は浦添謝名の一貧農の家に生れたのであるが、豁達明敏よく衆望

1) 在位西曆1187—1237.
2) 在位西曆1260—1299.

を収めて先づ浦添按司に擧げられた。英祖王統の第五代西威王薨するに當り、當路者は五歳の世子を擁立したのであるが、國民はこれを肯せず、察度を迎へて中山王の位を襲がしめたのである。かくてここに察度王統がはじまる。

察度¹⁾は始めて明に朝貢したが、これは琉球が貧弱で自給自足に困難であるから、明と貿易を開始し利益を擧げ、強大なる明の後援に依つて自家の保全を得ようとしたのであると解せられて居る。察度王の努力と明の調停に依り、中山も暫く小康を得たが、武寧王の代に至り又紛亂し、遂に佐敷按司巴志の爲めに亡ぼされ、察度王統は纔か二世五十六年で絶へた。

巴志の父思紹²⁾は佐敷按司たりしとき其子巴志の英明武勇なるを看て己れに代つて按司たらしめたが、巴志が武寧を亡したるに依り國人に推されて國主となつた。こゝに尙思紹王朝がはじまる。巴志は能く父を輔けて仁政を施さしめ國人悦服した。第七代の尙德王に至つては君德修らず、暴虐無道であつたが、群臣は畏れて敢て諫めなかつた。時に君側の重役に金丸なるものあり、王に諫言して曰く「臣聞く、君主の道は己れを持するに德を以てし、民を養ふに仁を施し、萬民の父母となるにあり、今王、朝綱を廢し、典法を破り、忠諫を防ぎ壇に無辜を殺す、恐らくは是れ父母の道にあらず。」と述べ、また屢々諫め王の忌諱にふれ、遂に己のが領地に隱退して居た。王薨するに際し幼少なる世子を擁立するも多年の暴政を收拾し難き事情ありし爲め、諸官は協議の上、金丸を王とするに決し、諸官は乗物や服裝まで用意して金丸を迎へに來た。金丸再三固辭したが

1) 在位西曆1350—1395.

2) 在位西曆1406—1421.

容れられなかつたから遂に位についた。これ尙圓王¹⁾であり、ここに尙圓王統はじまる。即ちこれ今日の尙侯爵家の系統である。

今この七百年王朝變遷の歴史を見る時、我々はそこに西歐に於て見らるるが如き殺伐なる王位の爭奪戦を見ないのである。また支那に於ては王道なるものが立派に唱へられるのであるが事實そのなせるところを見れば其王位の爭奪は西歐のそれと異ならない。而してこの琉球七百年の王朝變遷に見られるところのものは、事實上この王道そのものの實行である。即ちそこには有徳なるものが王位につき民の父母として民の爲めに政治をすると云ふ根本思想が働いて居る。このことは琉球の國民性が人間愛に富み全體的¹⁾精神に秀て居ることによつてはじめて可能である。

琉球の政治の黄金時代と、奴隸時代とは共にこの最後の王朝の中に於て見られるのである。即ち第三代尙眞王は非常な明君であつて、恰も徳川三代將軍家光の如く、中央集權を斷行したが、而も家光に先立つこと百年である。この時が琉球の黄金時代であり、首里城下の尙眞王頌徳碑等自國の言葉で金石文を書くなど國民意識の最も高潮した時代であつた。今日現存する重要な遺物である靈御殿^{タマウダン}、圓覺寺等は殆んど總てがこの時代の創建にかかるものである。これに反して第七代尙寧王より琉球史に於ける奴隸時代が島津によりてはじめられる。即ちこの時、島津は琉球を征伐し、尙寧王を捕へた。尙寧王は日本にあること二年家康にも謁し優遇せられ再び歸還を許されたが、那覇より裏道を傳ふて、王城に歸つたと傳へられて居る。此間島津は多數の吏員を琉球に

1) 在位西曆1470-1476.

派し全土の土地を検し境界を正し租税の法を定め、所謂藩政時代の地割制度を確立した。また琉球國の薩摩藩に對する年々の貢物を規定した。琉球は爾來三百年薩藩の附庸となつた。かくの如く薩藩は琉球を征伐したが、其王國たる形式を保有し、之を利用して支那貿易の利潤を壟斷し而して自國の經濟的基礎を鞏固にした。他日薩摩が明治維新の大業に重要な役割を演ずるが爲めに必要であつた其經濟力に對して三百年間の琉球の貢と琉球を通じて爲された支那貿易が功獻せしことを我々は忘れてはならぬ。かゝる事情の下に於て王家は反つて安定する地位を得たのであるが、琉球全體としては精神的及經濟的に非常な打撃を受けた。即ち琉球は爾來支那以外の諸國との貿易を禁ぜられ海外發展の雄志を挫折せられ、昔日の勇敢なる精神はいつしか失はれ、士族は自暴自棄に流れて遊惰の風冗長し百姓は搾取に惱まされかくて勞して效なき狀態に陥りしを以て勤勞を好まざる弊に墮し、かくて古來雄健なりし國民性は漸次消滅し退嬰保守の氣風を馴致し經濟的にも著しく疲勞して行つたのである。今日琉球に於て聞かるゝ悲曲其他我等をして哀情を起さしめるものは總てこの間に於て生じたのである。日本内地の人々はかかる哀史の體驗をもつて居ない。然しこの琉球に於て見られるところのものが我々と同じ大和民族の亡國的歴史の下に受けしところのものであることを思ふ時、それは決して人ごととは思はれないのである。現代の日本人が今日の非常時と變革期に處し萬一誤るならば其結果が國民性に與へる影響はどうであらうか。過去二千年の歴史を負ひこれを將來の國民に立派に傳へねばならない現代日本人の現代の

變革期に對する異常なる責任がここにあるのである。

(四) 琉球藝術に現はれたる國民性

以上政治に於ては主として變革期に處する國民性の發露を見たのであるが、藝術に於ては主として琉球全盛期に於ける最も旺なる國民精神の發揚を見る。これ今日殘されたところの藝術は主として尙眞王時代に創建せられたる建築藝術なるが故である。而して「藝術は國民の顔である」と云はるるが中にも建築は最も具體的統一的に國民精神を發現するところのものである。我々は琉球を訪うて先づ我々の目を惹くところの、而して今日尙生活の中に織り込まれて居るところの住宅と墓とより觀察を始めよう。

琉球の家屋はさびた赤瓦を以てかつちりと葺いた低く落付いた而も小さな家である。その瓦の色と云ひ家全體の形と云ひ古雅な愛すべき感を與へる。室數は少きものは二、三、多きものも六室を出ないのが普通である。而して室と室との間は板をもつて仕切られて居る。而も必ず先祖の靈を祀つてある室がある。

琉球に於て最も獨特なる建築藝術は墳墓藝術である。船が那覇港に近くと海岸にのぞんだ眺望よきところに白い班點が見える、民家でないかと思はれるが、それは墓の一群なのである。「それは一見したところ南支那の墳墓に類似して居るが南島に於けるあらゆる墳墓の形式と比較して見ると、其間に自ら聯絡がついて、支那のとは全く其發達の經路を異にして居ることがわかる¹⁾」

1) 伊波普猷「琉球の墳墓」日本地理大體九州篇第258頁。

沖縄島は殆ど石灰岩より成るが故に自然の洞穴が多くこれが墓穴として用ひられたが、文化の進むに従つて墓室は人工的に造られ今日其壯觀が我々の眼を驚かすところの龜甲式、家形式が作らるるに至つたのである。そのがつちりした感じ白亜が黒みを帯びたる寂びの感じ簡素壯大なる感じは秀れた墳墓藝術である。かかる墳墓群は那覇市の辻原のみならず田舎にも方々に見られる。而も帝王の墳墓に至つては更に雄大なものがある。浦添の「ようどれ」にある英祖王陵及び尙寧王陵は自然の小山の側面に造られた横穴式の壯大なるものである。また首里にある尙圓王朝歴代の墓陵「靈御殿」^{タマウドン}は前述せし如く琉球王國の黄金時代尙眞王の時に創建せられたもので三棟の家形式より成り王の洗骨を納める棟の右には英國の古城を思はせるが如き圓き塔があり上には魔よけの獅子が置れてあり此棟の左には自然石の上に鬼人の像が立つて居る。その全體の感じは簡素雄健崇嚴であつて、何となくギリシャのドリック式建築に似た感がある。洵に陵墓藝術の世界的偉作と云ふも過言ではあるまい。

かくの如く今日尙ほ上は王公より下は匹夫に至るまで墳墓を重んじてこれに資財を投じ（民間の墳墓が賣買される場合には大なるものは今日貳參千圓小さきものも參四百圓に價すと云ふ）而して家にはまた必ず祖先の靈を祀つる間を設けて居るところに我々は今日尙ほ變らざる琉球人の情緒的な超個人的全體的な精神を認めざるを得ない。

「靈御殿」に見られたる秀れたる國民精神を我々は同じく尙眞王の時に創建せられた眞玉橋に於

て見る。伊東博士は適切にもこれを次の如くに評して居られる。

「琉球第一の名橋は、那覇港口から深く灣入した那覇江に架けられた眞玉橋である。…長さ約二十間餘幅二間の大きさである其の形が如何にも美しい。下に三拱を架し、上に質素な欄をつけた丈で、裝飾は全く無いが、その無裝飾で、只だ線の運用丈で技巧を現はした處に限りなき妙味がある。…その線の動きを観察するに、第一に橋の長、廣、高の比例が恰も適當である。三拱の形は半圓に近いがやゝ扁平で、その曲線が美しくしかも力がある。拱の空間と壁間との面積の比例も誠に美しく爲に橋に堅實の觀を與へる。橋の上面は極めて微に凸曲線を描いて居るが殆んど氣が附くか附かない位であつて、これが人に得も云はれぬ快感を與へる。石の大きさ、其の積み方も雅致に富んで居るが強固の感に充ちて居り、見れば見る程心持のよい橋である。…奇を衒ひ、巧を弄し、彫鏤傳彩を事として俗眼を欺かんとする建築は、この橋の前に愧死せざるを得ないのである。」¹⁾

洵にそこに見らるる堅實にして優雅、何等の虚飾なき純眞なる心持は得も云われぬものである。

眞玉橋は琉球としては雄大な橋であるが、これに對して精巧な優美な洵に愛すべき橋がある。

それは圓覺寺放生池の橋である。それは僅か數間の小橋である。「この欄には非常に美しい彫刻が施されてあるが、殊にその親柱の頭の獅子が堪らない位の名作で」²⁾ある。

琉球隨一の名橋眞玉橋と同一精神に出て而も最も獨創的なる建築は崇元寺の第一門である。伊東博士は適切に次の如くに評して居られる。

「この門は規模大ならず、手法は簡單であるが、その中央部と左右翼との取合せの自然なる、その相互の廣袤幅員の權衡を得たる、その全部の輪廓の簡明にして要を得たる、その線の少なくして一も無駄のなき、數へ来れば限りなき美點が現はれ来る、一見素朴なるが如くにしてよく凝視すれば益々豊富である。一瞥粗野なるが如くにしてよく觀察すればいよいよ高雅である。極めて無造作なるに似て實は苦心慘憺の作であり、甚だ淺薄なるに似て實は重厚深刻の作である。要するにこの門は舊來の因襲に拘泥せずして、新たに獨創的意匠を試みたもので、清新潑刺たる氣分が横溢して居る。」³⁾

この建築を通じて我々は此の國民性が和漢文化を入れよくこれを同化し、自己獨特のものを發展

1) 伊東忠太著、木片集、第五二三一五三四頁。
2) 同、第四九七頁。
3) 同、第五〇〇一五〇一頁。

せしめ行く姿を見るのである。

次に殿堂の建築について考へて見んに、先づ首里王城の正殿は琉球第一の大建築である。

「外觀は重層であるが内部は三層になつて居り棟の兩端には、琉球式の異様な吻が蟠まり向拜の上には巨大な唐破風が架けられてあるがその棟にも同型の巨吻が下界を睥睨して居る。破風の内には痛快な龍の彫刻が施されてあるがその手法は我桃山時代の雄健なる氣魂を備へて居る。龍柱の龍も石欄の彫刻もみな同型の様式を示して居る。蓋し和漢の要素を攝取して新に琉球特殊の様式を大成したものと云ふも過當でない¹⁾。」

即ちここに我々は琉球精神の最も雄大なる表現を見るのである。

此首里城の北に接する圓覺寺は「尙眞王が、京都の芥隱禪師を請して建立した禪刹で尙家の菩提所である。……誠に理想的な配置が構成されて居る。……必ずしも大規模でないが、琉球に於ける唯一の七堂伽藍具足の巨刹で、同時にまた最も美しい建築物である²⁾。」

琉球王家の廟所である崇元寺は那覇の東北境、首里街道の北側に接してある。其山門については既にさきに述べた。本堂は和漢混用の建築であつて圓覺寺につぐ名建築で其内には舜天王以下歴代の王の位碑が一堂に祀られて居る。

琉球に於ける第一の名苑は、首里城南の離宮識名園である。離宮の屋舎は琉球特有の赤瓦をもつて葺れ如何にも落付ける平屋である。前面に池水あり橋あり池中には六角亭あり周圍は鬱然たる樹木をもつて蓋はれその全體が洵によく統一せられて居り、其幽邃優雅なる趣は内地の名園にも劣らない。

1) 伊東忠太著、木片集、第四八四—四八五頁。

2) 同、第四九六頁。

最後に工藝品について見るも琉球には染工、陶工、漆工等優秀なるものが少なくない。その色調は濃厚であつて美しく少しも悪毒き感を與へない。圖案もまた變つた趣がある。而して琉球更紗は日本友禪の起源であるとも考へられて居る。

かくて以上見來りし、琉球藝術の特徴の第一は其全體が情緒的であり而して純真且つ優美なることである。こゝに純真なる情緒に富める國民性を見る。其第二は日本支那更に朝鮮安南、南洋の影響を取入れよくこれを同化して獨特の藝術を創造せることである。こゝに其國民性の同化力に富むことを見る。其第三は其藝術が一般に小さい感を與へるが而もまた靈御殿、首里王城の正殿の如く雄大なる感を與へるものゝあることである。こゝに其國民性が一般に小さいか而も雄大なる素質のあることを見る。

三、結論 現代社會問題解決の精神的基礎としての我國民性

私は以上琉球の文化的表現を通じて琉球の國民性を考察したのであるが、こゝに知られたる琉球國民性の特色が同じく大和民族であるところの我國民性の特色である。而してこの國民性の特色が現代我國の社會問題解決の精神的基礎となるのである。此等のことは別の機會に於て詳に論ぜざるべきことであるが、こゝにはこれに一言し以てこの論を一應結ぶこととする。

先づ我々は琉球の文化的表現を通じて琉球人の純真なる情緒に富める精神を見たのであるが、また政治史に見らるる全體的精神もこゝに發して居るのであつて、後に述べんとする琉球の共同

主義經濟もこの精神の上に打立てられて居るのである。この純眞なる情緒的精神とこれより發する全體的精神とは更に顯著に日本文化と萬世一系の國體に見られる。而して此精神が現代社會問題解決の精神的基礎として最も重要なものである。即ち資本主義なるものは個人の利己心が全體の利益と一致すべきことを原理として打立てられた個人主義的經濟制度であるが、今や兩者が一致し得ざることが明となり、新に共同主義經濟を確立することが現代社會問題の中心となつて居るのである。然るに共同主義經濟なるものは全體精神の上にのみ眞に確立され得るものである。こゝに共同的精神なるものゝ現代社會問題に對する重要な意義がある。加之、此共同精神が、世界社會問題を解決すべき日本國民の世界史的使命に對しても其根本を爲すところのものなることは後に述べるが如くである。この精神は琉球に於ては今日尙ほ豊に生きて居るが、日本内地に於ては西洋資本主義の輸入以來日々破壊されつゝある。今にして共同主義經濟を打立てこの精神を旺盛にすることは我國文化の重要問題である。

次に我々は琉球文化を通じて琉球國民性に秀れたる同化力を見たのであるが、これまた日本國民性の特色である。即ちこの同化力こそは我國民をして朝鮮、唐、印度等の文化を取り入れこれを同化せしめることにより、藤原期に於て日本特有の文化を大成せしめ更に宋元等の文化を取入れこれを同化せしめることにより徳川期に於て再び日本特有の文化を創造せしめ、以て世界史に稀な連綿二千年の文化史を發展せしめたところのものである。而してこの同化力がまた現代社會問

題解決の重要な精神的基礎である。即ち我國は明治維新以後新に西洋文化を盛に輸入し資本主義もこれと共に輸入したのである。而してこの資本主義が其中心をなせる現代日本の社會問題を解決すると云ふことは、要するにこの資本主義の有する西洋的原理を日本精神を以て同化すると云ふことである。即ちその個人主義的唯物主義的原理を日本精神の共同主義的原理をもつて置き換へ、以て國民共同主義經濟を確立しかくて資本主義の將來せし偉大なる生産力を眞に國民全體の生活の爲めに用ゐることである。

次に我々は琉球の文化的表現に於てそれが質的に秀れて居るにも拘らず量的に小規模であることを見たのであるが、これまた琉球の國民性を示すものである。同様にこのことが日本文化及び日本國民性に見られる最大の欠點である。所謂日本人の島國根性が即ちこれである。而も琉球藝術に於ても靈御殿及び王城の正殿の如き雄大なる表現があることは、日本に桃山期等の雄大なる表現があると同様である。このことは即ち琉球及日本の國民性の雄大なる一面を語るものである。即ち日本並に琉球の文化及び國民性が小さいことはこれ等の人々がその中に閉ぢこもつて生きて居る自然が小さいが故である。而して琉球藝術が日本のそれよりも更に小さき感を與へるところは琉球人がその中にとぢこまれる自然の更に小さきが爲めである。而もこの日本人が世界に雄飛せんとせし桃山時代の藝術が雄大であることは日本人の心がこの小さな自然の中にとぢこめられて居なかつたが故である。而してこの日本國民が其本質をなせる共同精神を世界に向つて雄大

に發揮することが現代世界社會問題解決の精神的基礎となるのである。即ち、近代の世界史は白人種が有色人種を隷屬せしめた歴史であるが、この有色人種を白人の壓迫より解放し各國民をして自由なる文化主體たらしめ潑刺たる個性的文化の發揮を遂げしめ、以て地球上に眞の人間社會を將來することが現代世界社會問題の解決であるが、この世界史的使命を今日負はされて居るのは即ち有色人種の先頭に立つて居る日本國民である。かくて此日本國民が眞にこの世界史的使命を自覺し、「各國民の爲めに各國民を解放する」爲めの世界史的活動に進み入る時、こゝに日本國民の所謂島國根性は全く打破せられ雄大なる日本固有の文化は自ら發露せざるを得ないのである。かゝる雄大なる決心に立つてこそまた内に國民共同主義經濟を確立し現代日本の社會問題を根本的に解決し得るのである。

云ふまでもなく社會問題の解決には物質的基礎と精神的基礎とが必要であるが、私は以上専ら其精神的基礎について考へたのである。而して私は稿を改めて、以上明にしたる琉球國民性に基き琉球の共同主義經濟等を理解し以て現代社會問題について更に考察したいと思ふ。